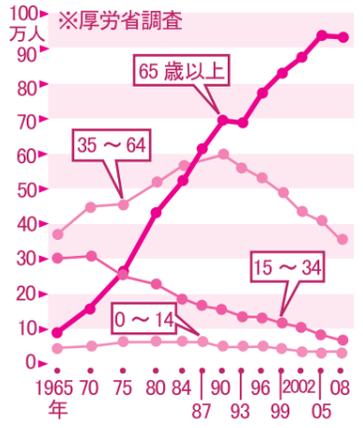




◆ 65歳以上の入院患者減 厚労省08年調査

厚生労働省が行った患者調査によると、65歳以上の1日当たりの推計入院患者数が2008年は、93万1400人で、05年に行った前回調査と比べると0.6%減となり、15年ぶりに減少したことが分かった。

年代別の入院患者数(推計)



「在宅医療や外来への振替が進んでいるとみられるが、まだ傾向が変わったと判断できる段階ではない」としている。

一方、後期高齢者医療制度の対象である75歳以上の患者数は、入院が65万2300人、外来が159万2300人ともに過去最多だった。

入院患者の総数は139万2400人で前回調査から7万400人減少し、年代別では、1960年代から右肩上がりが増え続けていた65歳以上が減少に転じ、前回調査に比べ6100人減った。

昨年9月に病院から退院した患者の平均在院日数は37.4日だった。

(12/4)

◆ 世界の平均気温 3番目に暖かく

気象庁が発表した2009年11月末までの世界の平均気温の速報値によると、平年(1971~2000年の平均)より0.31度高く、過去3番目に暖かい年だったことが分かった。

今年、北米大陸や中央シベリアを除き、平年より気温が高い地域が多く、特に欧州や中東、東アジアなどで高温になった。

世界の年平均気温は100年あたり0.68度のペースで上昇しており、1990年代後半から高温となる年が相次いでいる。同庁は「地球温暖化に、南米ペルー沖の海面水温が高くなるエルニーニョ現象などが重なり、世界的に高温になったと考えられる」と分析している。

(12/15)

◆ 高齢者独り暮らし倍増へ

国立社会保障・人口問題研究所が発表した都道府県別世帯数将来推計によると、2030年の世帯数に占める65歳以上の高齢者の独り暮らし世帯の割合は、全国平均で05年の7.9%から14.7%まで上昇し、ほぼ7世帯に1世帯が高齢者単独世帯となることが分かった。

65歳以上の高齢者夫婦世帯と高齢者単独世帯の合計は、鹿児島県、和歌山県、宮崎県など10道県で、30年に全世帯の3割を超える。全国平均も05年の17.4%が26.3%に上昇し、高齢者同士の「老老介護」の問題などが深刻化しそうだ。

(12/19)

◆ 出生数減 106万9000人

厚生労働省の「人口動態統計の年間推計」によると、2009年に国内で生まれた日本人の赤ちゃんは、08年より2万2000人少ない106万9000人となり、09年は2年ぶりに減少する見通しとなることが分かった。

一方、死亡者数は2000人増の推計114万4000人で、9年連続で増加し、戦後国の統計資料が残っている1947年以降で最多を更新する見込み。

出生数から死亡数をひいた日本人の「自然増減数」はマイナス7万5000人で、マイナス幅は前年の約1.46倍と人口の減少が一段と加速している。同省は「高齢化で死亡数が増加する一方、出産する年齢層の女性が減っていることから、今後も人口の減少幅拡大の傾向は続く」との見方を示した。

(1/1)

◆ 米飯給食 週平均3.1回

文部科学省が調べた2008年度の米飯給食の状況調査によると、実施校の1週間の平均提供回数は3.1回だったことが分かった。

米飯給食を実施している国高私立の学校は3万1094校で、全体の99.9%に及ぶ。提供回数は、「週3回」が最も多く61%で、週3~5回を合計すると87%だった。自校でご飯を炊く学校は43%で、他は外部に委託していた。

パン給食から始まった学校給食に1976年米飯給食が導入され、日本の伝統的な食生活として国は85年から「週3回程度」を目標に推進してきた。07年度に全国平均で週3回を達成したが、食料自給率の向上などを考慮し、09年にはさらに「週3回以上」を新たな目標としている。

(1/18)



地区衛生組織代表者会議開催

新規に「一万人のエコチェック事業」

一月二十九日、鯉城会館(広島市)にて、平成二十一年度地区衛生組織代表者会議第二回定例会および募金委員会が開催され、県内から代表者三十一人が参集した。定例会では、平成二十一年度公衛協事業の実施状況中間報告、専門部会の議事報告を行った。続いて、二十一年度の全県共通事業重点メニューについて、新規事業の二つを含む事務局案を説明。まず、環境づくりでは「一万人のエコチェック(仮称)」の事業概要を説明した。



活発に議論が交わされた定例会

県内約一万人の公衆衛生推進委員が一カ月間、家庭の省エネに挑戦し、削減効果を数値的に把握・評価し「見える化」するといったもので、事業を通して脱温暖化活動を展開する「エコチェック」を目的とする。一方、健康づくりでは、地域の環境

平成21年度公衛協ブロック会議

公衛協ブロック会議を、次のとおり開催いたします。お申込み、詳細については各市町公衛協事務局へお問い合わせください。

◆主な内容◆

- 平成22年度地域活動支援センター事業計画について
○平成22年度全県共通事業重点メニューについて(新規事業含む)
○平成22年度健康感謝募金事業の進め方 ほか

◆日にち/場所◆

- 福山・尾三ブロック
3月16日(火) 環境保健協会東部支所(福山市)
○北部ブロック
3月17日(水) 三次市文化会館(三次市)
○西部・呉ブロック
3月18日(木) 西区民文化センター(広島市)

*時間は、全会場とも10:30~15:00を予定しています。

(地域活動支援センター)

広島県赤十字血液センターの報告によると、平成二十一年度の全国献血者数は、延べ人数で約五百三十三万人、そのうち広島県は約十二万人となっています(右下表参照)。また、人口あたりの献血率では、全国平均四・〇%に対して四・三%となっており、献血に寄与する県民が多いことがわかります。

しかし、一方では、広島県の輸血用血液の人口あたり使用量が全国平均と比べて多いため、年間を通して血液の在庫不足になる傾向があるようです。そのため、県内では企業や自治体のほか、市町公衆衛生推進協議会など共催した献血活動が、各地で盛んに行われています。市町公衆衛生推進協議会においては、歴史のある健康づくり運動のひとつとして、現在も熊野町や三原市、呉市など十五の市町で取り組まれています。

(事務局総務課)

あり、公衛協活動を市・町民に知ってもらうための募金の使途を明白にすることが重要であること、出席者で確認しあった。また、募金の進め方や事業所募金に関する事例紹介など、活発な意見交換がなされた会議となった。

環境協

社会貢献活動として献血を実施

四百三十三万人分を確保

一月四日、当協会は、仕事始めの日に合わせて献血事業を実施しました。献血事業は、広島県赤十字血液センターの

全面協力により、社会貢献活動の一環として行いました。今回は、当協会の職員を中心に四百三十三万人分を確保するべく、約四時間で三十八人分(うち一人は近隣住民)

献血者の構成比

Table with 3 columns: 200ml, 400ml, 成分献血. Row 1: 全国 9.4%, 59.6%, 31.0%. Row 2: 人数 5,137,612人

Table with 3 columns: 200ml, 400ml, 成分献血. Row 1: 広島県 4.6%, 59.5%, 35.9%. Row 2: 人数 124,154人

健康感謝募金

~地区衛生組織活動資金募集~

市町別一覧表 (平成22年1月末現在)

健康感謝募金 総額 61,083,394円



Table with 3 columns: 市町名, 募金額(円), 達成率. Lists various municipalities and their contribution amounts and rates.

※この表は、市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、今年度で50回目を迎えています。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。